



環境対応 100/1000BASE-X/X SFP 対応リモート監視機能付メディアコンバータ

DN6700E (Rev. D以降)

2024.4.1(7.0版)

取扱説明書

ご使用前に必ずお読み下さい。

製品仕様はHP上の仕様書を参照下さい。

安全にご使用いただくために(使用上の一般的注意事項)

指定用途以外には使わないで下さい！

100/1000BASE-Xの光変換以外の用途にはお使いにならないで下さい。

また仕様の項目を超えない範囲でお使い下さい。

分解しないで下さい！

取付けてあるカバー類は取り外さないで下さい。分解された場合は一切の保証をいたしません。

製品は大事に扱って下さい！

誤って落としたり、ぶつけたりしますと製品の性能を低下させますので十分にご注意下さい。

異常が起きたら直ちに使用中止！

使用上、煙・臭い・発火などの異常に気がついた場合には、直ちに使用をやめ点検・修理に出して下さい。

条例に従って産業廃棄物として廃棄して下さい！

本装置を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って産業廃棄物として処理して下さい。

電波障害自主規制について！

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本製品のご使用にあたって！

本製品は、人命に関わる場合(医療、航空、原子力、軍事等)や高度な安全性や信頼性を必要とするシステムへの使用または機器組み込みでの使用を意図した設計および製造は行っておりません。

従いまして、これらのシステムへの使用や機器に組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的、間接的または付随的なものであるかどうかにかかわらず、弊社は一切の責任を負いません。

お客様の責任におきまして、このようなシステムへの使用または機器に組み込んで使用する場合には、使用環境や条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなどご注意願います。

大電株式会社



警告

- ・交流100～240V以外で使用しないで下さい。
指定電圧以外で使用すると火災や感電、故障の原因となります。
- ・ACアダプタは専用のものを使用して下さい。
火災や感電、故障の原因となります。
- ・ACアダプタはACコンセントに確実に差込んで下さい。
ACアダプタの刃に金属などが触れると火災や感電、故障の原因となります。
- ・水につけたり、水をかけたりしないで下さい。
漏電による火災や感電、故障の原因となります。
- ・浴室や加湿器のそばなど湿度の高い所では使用しないで下さい。
漏電による火災や感電、故障の原因となります。
- ・専用ACアダプタと他社の機器とを接続しないで下さい。
機器の故障及び火災や感電、故障の原因となります。
- ・静電気注意！
本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。静電気による故障・誤動作を防ぐため、製品に触れる前には除電を行って下さい。

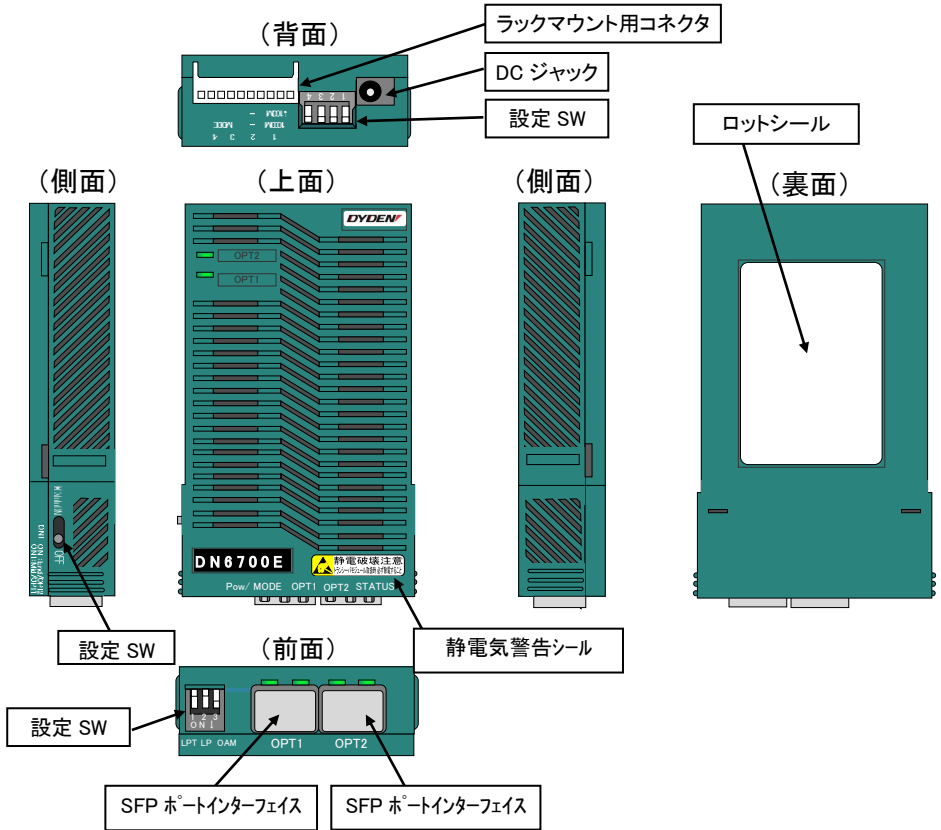


注意

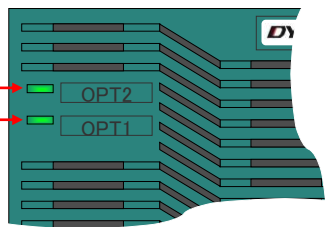
- ・ACアダプタを抜くときは、アダプタ本体部を持って抜いて下さい。
電源コードを引っ張るとコードの損傷が発生し火災や感電の原因となることがあります。
- ・濡れた手で製品に触れないで下さい。
故障や感電の原因となることがあります。
- ・本装置をストーブなどの熱器具のそばに置かないで下さい。
ケーブルの被覆が溶けて火災や感電の原因となることがあります。
- ・本装置を直射日光の当たる所や温度の高い所で使用しないで下さい。
内部の温度が上がると火災や故障の原因となることがあります。
- ・放熱スリットや隙間に針金や金属物などの異物を入れないで下さい。
内部に触れ感電やけが、故障の原因となることがあります。
- ・放熱スリットを塞がないで下さい。
スリットを塞ぐと内部に熱がこもって故障の原因となります。
- ・本装置をほこりの多い所や油煙のあたる所で使用しないで下さい。
火災や故障の原因となることがあります。
- ・本装置を不安定な場所または振動や衝撃の多い場所に置かないで下さい。
落下などにより、けがや故障の原因となることがあります。
- ・本装置はクラス1レーザ製品です。(対象:SFP モジュール)
SMファイバ用 SFP や 1000BASE-SX 用 SFP はクラス 1 レーザを使用しており、クラス1レーザは合理的に予知可能な運転条件で安全であるレーザです。
- ・光コネクタ清掃のお願い。
本装置は光ファイバとの接続に光コネクタを経由して光信号を伝送しています。光コネクタが埃等で汚れていた場合、正常に光信号を伝送できないだけでなく、光モジュール内に汚れが付着し、簡単に清掃ができなくなりますので必ず光コネクタ清掃後に接続頂くようお願いいたします。

1. 装置各部の説明／付属品

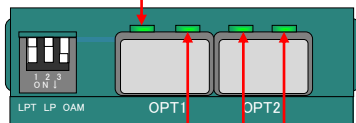
本 体



表示 LED



電源/モード状態表示 LED
 (電源供給時に点灯(緑/橙))*3
 (リモート側 MC 電源異常時点滅(緑/橙))*3,4



光ポート(OPT1)状態表示 LED
 (アイドル信号受信時に点灯(緑/橙))*1
 (通信時高速点滅(緑/橙))*1,2
 (Signal Detect 受信時に低速点滅(緑/橙))*1

光ポート(OPT2)状態表示 LED
 (アイドル信号受信時に点灯(緑/橙))*1
 (通信時高速点滅(緑/橙))*1,2
 (Signal Detect 受信時に低速点滅(緑/橙))*1

MC 状態表示 LED
 (MC 正常時点灯(緑)/MC 異常発生時消灯)
 (リモート側 MC 状態取得時点灯(橙)/不可時低速点滅(橙))*5
 (ループバック試験成功時点灯(緑)/失敗時低速点滅(緑)
 /ループバック試験非対応モード時消灯)*6

*1: 1000M 動作時に緑、100M 動作時に橙となります。ただし上面 LED は動作速度によらず緑となります。

*2: R_State ON または R_State ON1 時には対応いたしません。

*3: 中継設定時に緑、端末設定または単体設定時に橙となります。

*4: 中継時: OPT1 側からの電源異常⇒点灯:消灯=2:1。OPT2 側からの電源異常⇒点灯:消灯=1:2。

端末時: 中継側からの電源異常⇒点灯:消灯=2:1。端末側からの電源異常⇒点灯:消灯=1:2。

*5: R_State ON または R_State ON1 時のみの表示となります。リモート側 MC 状態取得時に点灯し、取得不可時に低速点滅します。

※光ポートがリンクダウン時および光側対向機器が監視対象機器でない場合は、低速点滅となります。

ただし LPT 有効設定にて本装置がリンクアップしていても、監視 MC まで伝送路が正常に繋がっていれば状態取得できるため点灯します。

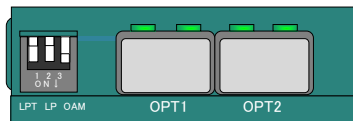
*6: 「LP」スイッチによるループバック試験時のみの表示となります。「LP」スイッチを OFF にするまで表示します。「LP」スイッチでのループバック試験は端末動作時のみ対応となり、他の動作モード時にループバック試験を行った場合、LED は消灯となります。

※「LP」スイッチ ON 中は、R_State の On または On1 時の LED 表示よりもループバック試験結果の表示が優先されます。

※Signal Detect: 対向機器から信号を受信している状態です。リンクアップ状態とは異なります。

設定 S W

スイッチの設定と動作モード(前面スイッチ)



1: LPT (Link Pass Through Mode)

リンク連動機能の設定を行います。

「LPT」が ON の場合には、光側のリンク断が発生した際に、他方へのアイドル信号送信を停止します。(詳細は 2.概要【リンク連動機能について】参照)

「LPT」が OFF の場合は、各光ポートは独立してリンクを確立します。

2: LP (Loopback Mode)

ループバック試験の設定を行います。

「LP」が ON の場合は、ループバック試験を実施します。

試験結果については「STATUS」LED にて確認いただけます。

(詳細は 2.概要【ループバック試験機能について】参照)

3: OAM (OAM Mode)

OAM の設定を行います。

「OAM」が ON の場合は、1700 または 6700 端末設定器からの監視対象となります。

設定は動作モードが中継時のみ反映されます。

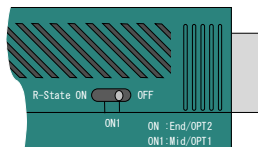
スイッチの設定と動作モード(側面スイッチ)

・R_State (Remote MC State Mode)

表示 LED の設定を行います(ON, ON1, OFF の 3 状態となります)。

「R_State」が ON、ON1 の場合、リモート側 MC の状態を表示します(動作モードにより対象のリモート MC は異なります)。OFF の場合は本装置の状態を表示します。

(詳細は 2.概要【リモート監視機能について】参照)



スイッチの設定と動作モード(背面スイッチ)

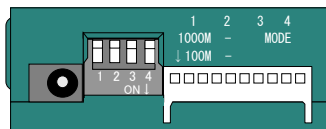
1: 1000M/100M (1000Mbps/100Mbps)

MC の通信速度設定を行います(OPT1,2 ポート共通)。

3, 4: MODE (MC MODE)

MC の動作モードの設定を行います。

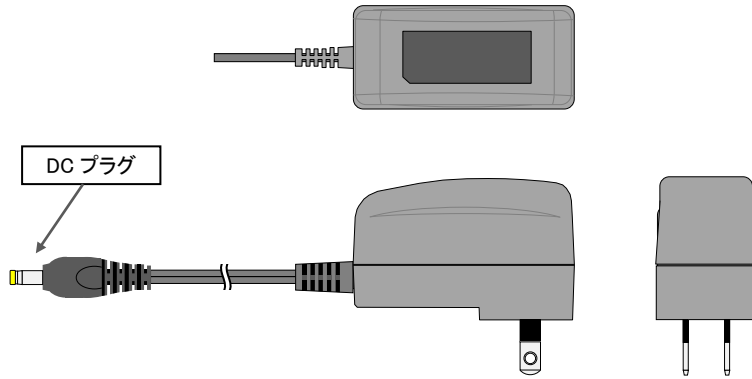
(各動作モードの詳細は 2.概要【モード機能について】参照)



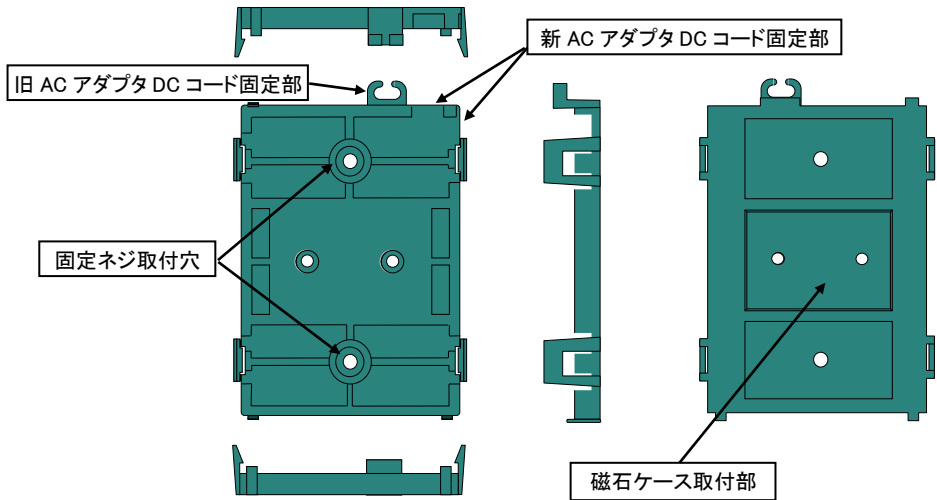
		MODE (4)	
		上	下
MODE (3)	上	中継	
	下	端末	単体

※背面スイッチの 2 は使用できません。

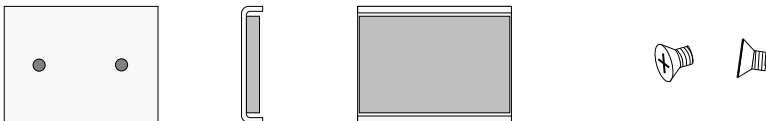
ACアダプタ



固定用ホルダ



磁石ケース & 取付ネジ (M2.5×L3mm, 2本)



※出荷時に固定用ホルダに組込まれています。

別 売 品

下記部材については、添付していませんので別にご準備下さい。

・SFP モジュール:

SFP MSA 規格に準拠した SFP モジュールをご使用下さい。

DMI 機能付きの SFP を使用する場合でも SFP モジュールの監視はできませんが、通信は可能です

(SNMP 搭載のラック実装時には監視可能です。詳細についてはラックの取扱説明書を参照下さい)。

当社のラインアップ品と組み合わせ時のみ動作保証致します。ただし、1000BASE-T、10/100BASE-TX 用の SFP は使用できません。

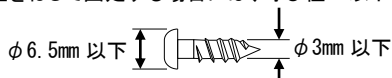
なお、温度保証の点から当社 SFP を使用することをお勧めします。

・コネクタ付光コード:

SFP 仕様に適合したファイバのコネクタ付きコードをご使用下さい。

・固定用ねじ:

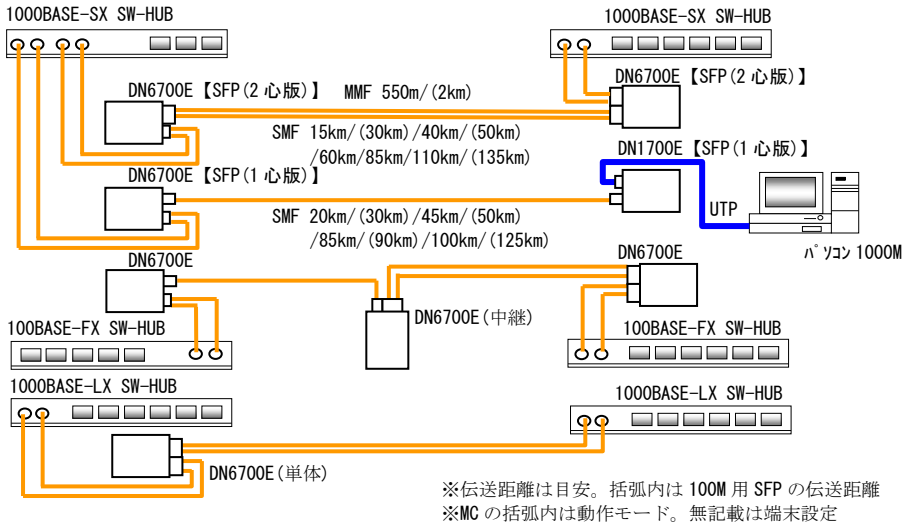
本装置をねじで固定する場合には、呼び径 3 以下(ねじ頭 6.5mmφ 以下)のねじを使用して下さい。



※磁石ケース取付ねじおよび磁石ケースを取外してから使用して下さい。

2. 概要

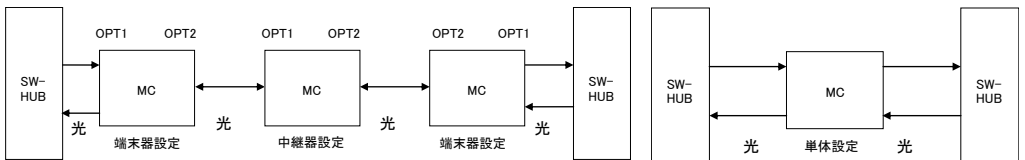
本製品は100BASE-FXまたは1000BASE-Xの信号を伝送するメディアコンバータです。なお、1000BASE-T、10/100BASE-TX用のSFPは使用できません。



【モード機能について】

本装置には動作モードが3種類(端末(End)、中継(Middle)、単体(Single))あります。各用途に適した設定でご使用下さい。

- ・端末(End) : SW-HUB等の端末器と接続する場合に設定して下さい。
OPT1側を端末器と接続することでOPT2側の機器の監視が可能になります。
- ・中継(Middle) : 6700E 端末や 1700E の伝送路間に接続する場合に設定して下さい。
OPT1,2側の端末側機器(6700E 端末、1700E)の監視が可能です。
また、OAM On 設定時には、端末器からの監視対象 MC となります。
カスケード接続台数は 10 台以下となります。
- ・単体(Single) : SW-HUB 間等での光⇄光変換時に設定して下さい。
OAM は非対応になり、監視やループバック試験等はできません。
カスケード接続台数は 10 台以下となります(LPT 有効時は 1 台のみ)。



※各動作モードでは LPT や監視、ループバック機能等の動作が異なりますので、詳細については各動作の説明を参照して下さい。

【リンク連動機能について】

本装置にはリンク連動（以下 LPT）機能があります。LPT 機能とは、メディアコンバータ（以下 MC）で受信のリンク断を検出した場合に MC の送信を OFF にする機能です。この機能により、MC を挟んで対向する SW-HUB 間等の伝送路が切断されたときなど、両方の SW-HUB が伝送路の切断を認識できます。例えば SW-HUB のマルチポートランキング機能を伝送路のバックアップとして使う場合、この機能がないと断線時などに正常な伝送ができない場合があります。

LPT 機能は各動作モードにおいて正常に動作する条件が異なります。

- ・末端(End) : OPT2 側の対向機器が 1700E 又は 6700E 端末設定の場合のみ動作します。
OPT1 側を必ず SW-HUB 等の端末機器と接続して下さい。
4 台以上での Back to Back 接続での LPT は正常に動作いたしません。
- ・中継(Middle) : OPT1,2 側の対向機器が 1700E 又は 6700E 端末設定の場合のみ動作します。
- ・単体(Single) : SW-HUB 等に必ず 1 台にて接続して下さい。

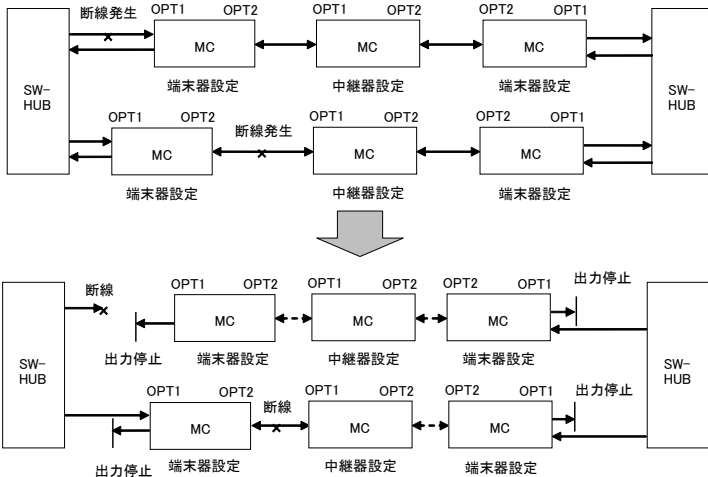
※LPT は 6700E 中継設定や 6800E シリーズ/6810E シリーズが間に入っていても動作します。

端末機器の設定が 1000M 固定設定時には正常に動作いたしません。また、100M 時に端末機器が FarEndFault 非対応の場合は一心断時に正常に動作しないことがあります。

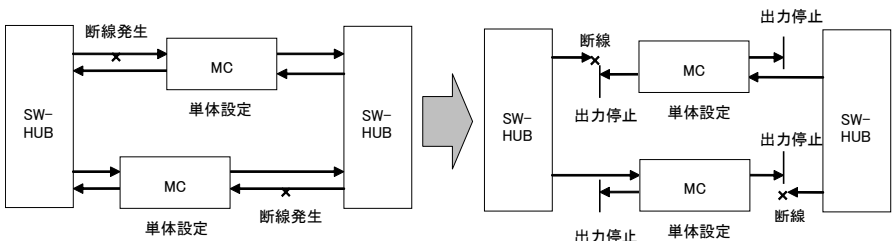
※あらかじめ相互接続試験を行うことをお勧めします。

※端末設定、中継設定時は大電製の 1700E、6700E 以外の MC との LPT は正常に動作いたしませんのでご注意下さい。

《端末/中継》



《単体》

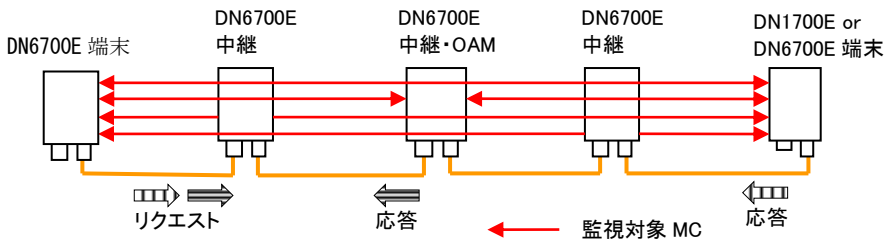


【リモート監視機能について】

本装置にはリモート監視機能があります。リモート監視機能とは、管理パケット(OAM)のやり取りによって、光側対向 MC の速度設定状態や動作状態、リンク状態を監視する機能です。各状態は側面 SW の R-StateSW を ON にすることで、本装置の LED での確認が可能となります。

リモート監視機能については各動作モードにおいて正常に動作する条件が異なります。

- ・末端(End) : OPT2 側の対向機器が 1700E 又は 6700E 端末設定/中継 (OAM Enable) 設定の場合のみ動作します。OPT1 側を必ず SW-HUB 等の端末機器と接続して下さい。
- ・中継(Middle) : OPT1,2 側の対向機器が 1700E 又は 6700E 端末設定の場合のみ動作します。OAM 機能を OFF でも監視は可能です(端末器側からの監視は不可となります)。中継設定は伝送路内に何台実装しても動作には影響ありませんが、OAM 機能を ON にする MC は 1 台として下さい。
- ・単体(Single) : 監視機能はありません。



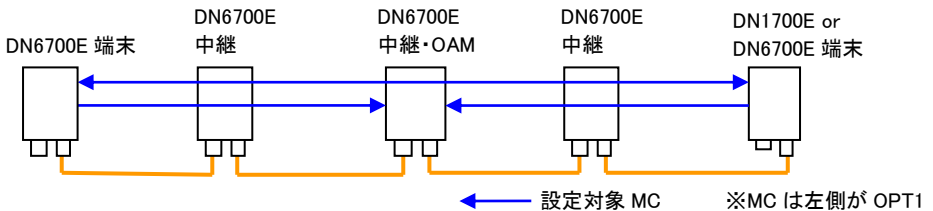
※リモート監視機能の対象は、1700E および 6700E のみとなります。6800E シリーズ/6810E シリーズが間に入っていても監視機能は有効です。

LPT 有効時にリンクダウン状態 (Signal Detect) でも伝送路が繋がっていれば監視可能です。

※OAM はデータフレーム間に挿入しますので通常の通信には影響を与えません。端末時に OPT1 側の対向機器へ OAM が漏れることもありません (OAM は大電独自のパケットです)。

【リモート設定機能について】

本装置を SNMP 搭載のラック実装にて、光側対向 MC の設定も可能です。



※各 MC がそれぞれ SNMP 搭載のラックに実装している場合

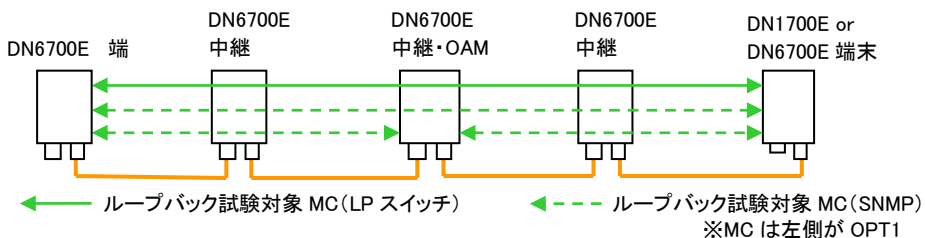
※リモート設定機能の対象は、1700E および 6700E のみとなります。6800E シリーズ/6810E シリーズが間に入っていても設定機能は有効です。

【ループバック試験機能について】

本装置にはループバック試験機能があります。ループバック試験機能とは、テストパケットの伝送により伝送路の異常がないかを確認する機能です。ループバック ON 設定時に一度だけループバック試験を実施します。試験結果については設定が OFF になるまで保持され、LED にて表示します。

ループバック試験機能については各動作モードにおいて正常に動作する条件が異なります。

- ・端末(End) : OPT2 側の対向機器が 1700E 又は 6700E 端末設定の場合に、1700E 又は 6700E 端末設定宛にループバック試験を実施します。
- ・中継(Middle) : ループバック試験機能はありません。ループバック ON 設定をすると NG の結果表示となります。ただし、SNMP 搭載のラック実装では OAM ON 時にループバック試験を実施できます。
- ・単体(Single) : ループバック試験機能はありません。ループバック ON 設定をすると NG の結果表示となります。



※ループバック試験の対象は、1700E および 6700E 端末のみとなります。6800E シリーズ/6810E シリーズが間に入ってもループバック試験機能は有効です。

LPT 有効時にリンクダウン状態 (Signal Detect) でも伝送路が繋がっていればループバック試験可能です。

※SNMP では 6700E 中継 (OAM ON) 宛のループバック試験も可能です (詳細については、SNMP 対応機器の取扱説明書を参照下さい)。

※ループバック試験は OAM にて行いますので通常の通信には影響を与えません。

※SNMP でのリモート監視・設定およびループバック試験機能の設定は、SNMP III (FirmV2.00

以降)での対応となり、SNMP や SNMP II、SNMP III (FirmV1.00)では非対応となります。

DN9830E、DN9840E では FirmV1.00 以降をご使用下さい。

【遠隔操作機能について】

SNMP 実装のラックオプション又は DN9830E/DN9840E と本装置を組み合わせることで、リモート監視・設定およびループバック試験機能を実現できます。

また、SNMP からの MC の On/Off およびリセット、SFP 各ポートの On/Off およびリセットにも対応します。

※MC および SFP の On/Off、リセットは SNMP III (FirmV3.00 以降)、DN9830E (FirmV2.00 以降)、DN9840E (FirmV3.00 以降)にて対応します (詳細については、各取扱説明書を参照下さい)。

※Off 設定時でも MC の監視は可能です。Off 設定時はリンクダウンするため通信できません。監視、リモート設定、ループバック試験の各機能も使用できません。

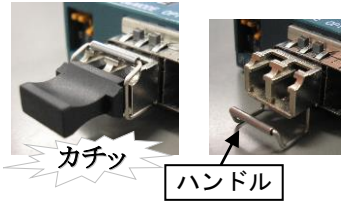
※MC Off 設定時に対向機器側での電源異常検知はできません。

※MC Off またはリセット設定時は SFP (両ポート)も同様に Off またはリセットとなります。

3. 種々の接続

SFP モジュールの接続

- ①SFP をスロットに差込み「カチッ」と音がするまで確実に差込んで下さい。なお、差込む際にはハンドルを上げた状態で差込んで下さい。
- ②SFP モジュールを取外すときは、まず光ケーブルを取外して下さい。
- ③SFP のハンドルを下げてスロットへの固定を解除します。
- ④SFP 本体を持って引抜いて下さい。



注: SFP モジュールは高温になっている場合がありますので作業時は十分注意して下さい。

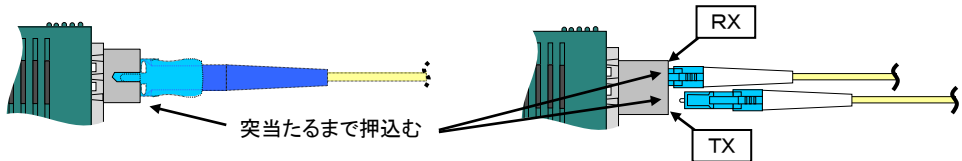
光コネクタの接続

当社ラインナップ品 SFP に適用します。

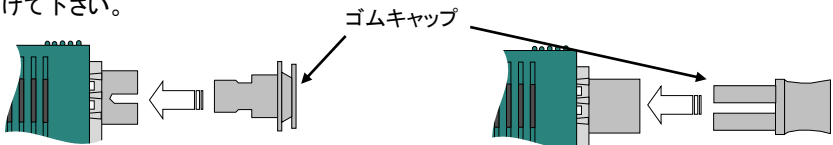
※接続可能な SFP の型番等の情報に関しては当社 SFP の仕様書を参照下さい。

【各シリーズ共通注意事項】

- ①光ファイバにねじれや無理な張力が加わらないように注意し、ファイバの曲げ半径を 30mm 以上確保して下さい。
- ②SC(LC)コネクタがロックされていることを確認して下さい。
※SC(LC)コネクタが突当たるまで奥に差込んで下さい。



※光コネクタを接続していない時は、ゴミなどが入らないように必ず SFP 付属のゴムキャップを取付けて下さい。



【OPT ポートが 1 心用の場合】

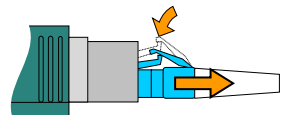
対向側に同じシリーズの波長違いが接続されていることを確認し、本体に SC(LC)コネクタを接続して下さい。

【OPT ポートが 2 心用の場合】

対向側に規格準拠機器(もしくは相互接続性のあるシリーズの機器)が接続されていることを確認し、本体に LC コネクタを接続して下さい。

※対向側の TX 部と本体側の RX(本体右側)部、対向側の RX 部と本体側の TX(本体左側)部と接続して下さい。

※LC コネクタを取外す際には、レバーロックのつまみ部を押した状態でコネクタを引抜いて下さい。ロックされた状態で無理に引抜くと、コネクタや装置を破損する恐れがあります。



A C ア ダ プ タ の 接 続

【新 AC アダプタ(黒地に白文字シール/細径 DC コード品)の場合】

① 抜け防止を行う場合、固定用ホルダの背面内部(新 AC アダプタ DC コード固定部)に DC コードを引掛けて下さい。

② DC プラグを本体背面の DC ジャック部に接続します。
※DC プラグが入らなくなるまで押込んで下さい。



最後に電源プラグ(AC アダプタの本体部)を AC コンセントに確実に差込んで下さい。

※AC アダプタは専用のものをお使い下さい。

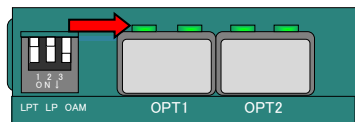
細径 DC コードを太径 DC コード固定部に取付けると抜ける場合がありますので注意下さい。

4. 接続状態の確認

電源の確認

添付の AC アダプタを AC コンセントに差込み、DC プラグ本体に接続した状態で本体表示 LED の「Pow/MODE」が緑色(又は橙色)に点灯していることを確認して下さい。

※中継時に緑、端末/単体時に橙になります。



光ケーブルの確認

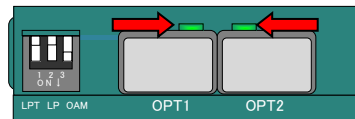
光側対向機器と光ファイバを接続した状態で本体表示 LED の「OPT*」が点灯(もしくは点滅)することを確認して下さい。

※光ケーブルを介して接続されている装置の電源が投入されていない場合には確認できません。

※LPT 設定状態時には、各光ポートの接続した機器全ての電源が投入され、且つ正常に配線していないと確認できません。

※「R_State」スイッチを OFF にして確認して下さい。

※「OPT*」LED は 1000M 時に緑、100M 時に橙で点灯(もしくは点滅)します(上面 LED は緑固定です)。



5. SWの設定及び注意

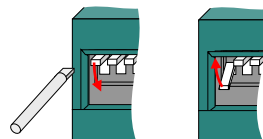
S W の 設 定

SW の設定は、精密ドライバー(マイナス)やシャープペン等先の細いものを用いて SW レバーを押下(または押し上)げして下さい。

※前面 SW は下向きで「ON」となります。

※設定変更時以外は不用意に SW に触れないように注意して下さい

※別売のラックオプション(DNHD12E 等)に実装して、オプション品「SNMP ユニット」から設定を行っている場合には、手動による SW の設定が有効になりません(「LP」および「R_State」SW は有効です)。



設定時の注意

- ①1000M.LPT 設定時に対向側の機器が 1000M 固定設定の場合には正常に動作しませんので、必ず対向機器を「Autonegotiation」設定にしてください。
- ②LPT 設定時是对向接続したメディアコンバータの設定も LPT 設定にしてください。
※対向機器を LPT 設定にしていないとリンク状態を伝えることができないため LinkAggregation 等のトランキング用途で正常に動作しない可能性があります。

ラックオプション(DN-HD12)搭載時の注意

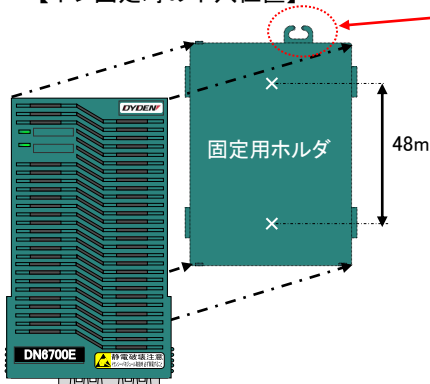
本装置は専用サブラック(DN-HD12)に搭載するときには以下のような制限があります。以下の制限を守らないと故障の原因となります。

- ・最大搭載数量は 6 台です。
- ・DN-HD12 への搭載箇所は上段のみです。
- ・上段に本装置が搭載されている場合は下段には当社の他製品は搭載できません。
※DN-HD12 および SNMP ユニットの取扱説明書もご確認ください。
※環境対応サブラックオプション DNHD12E に収納する場合は上記の様な制限はありません。

6. 装置の取付け

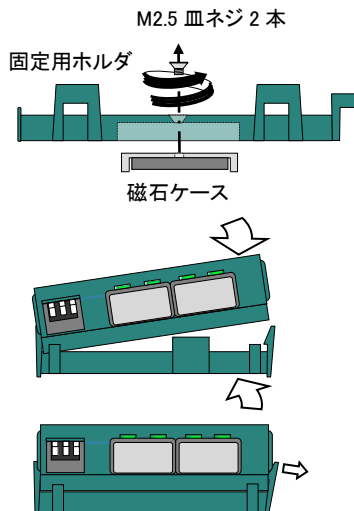
本装置は、ほこりや湿気が少なく直射日光の当たらない場所に設置して下さい。横置きで使用する場合には、落下の危険がない平らな場所に設置して下さい。壁掛けで使用する場合には、磁石ケースを取外して堅牢な壁面等に木ネジ等で取付けて下さい。磁石ケースを取付けたままネジ締めを行うと、固定用ホルダが変形することがあります。

【ネジ固定時の下穴位置】



ホルダの DC コード固定部が
本体の背面側になります。

【ネジ固定時の磁石ケース取外し】



※固定用ホルダに本体を取付ける場合は、固定ホルダの片側面の爪に引掛けてから反対側を押込んで下さい。

※固定用ホルダから本体を取外す場合は、片側の爪(前後 2 箇所)を軽く開きながら本体を引抜いて下さい。

7. こんな時は

故障かなと思った場合には修理を依頼する前に確かめて下さい。

Pow LED が点灯しない

確認①: AC アダプタは専用のものを使用していますか？

確認②: AC アダプタの本体部はコンセントにきちんと根元まで接続されていますか？

確認③: AC アダプタの DC プラグ部は MC 本体の DC ジャック部にきちんと根元まで接続されていますか？

確認④: 光側対向機器の電源は入っていますか？ (Pow LED が点滅の場合)

リモート側 MC の電源断を検出している状態です。リモート側 MC の電源状態が正常になったことを検出するまで点滅状態を保持しますので、リモート側 MC の電源をご確認下さい。

OPT* LED が点灯しない

確認①: SFP はきちんと根元まで接続されていますか？

確認②: 光コネクタの端面は汚損がなく確実にロックされていますか？

コネクタの端面を清掃し、再度光コネクタを差込んで下さい。汚損した光コネクタを接続し、清掃を行っても改善されなかった場合には汚れが光トランシーバ内に付着している可能性がありますので、光トランシーバ内の清掃を行って下さい(清掃が不可能な場合は一旦返却下さい)。

確認③: 接続相手機器の電源は入っていますか？

確認④: ケーブルは全て接続していますか？

リンク連動(LPT)設定時には光ポートが両方もリンク確立する状態にならないとリンクアップしません。

確認⑤: 光ケーブルが断線や異常損失を起こしていませんか？

1 心用タイプの SFP は 1.3um 及び 1.5um(または 1.5um 及び 1.6um)の波長帯を用いた光伝送を行いますので、光伝送路は 1.3um 帯/1.5um 帯(または 1.5um 帯/1.6um 帯)のいずれの波長帯においても光許容損失値内である必要があります。

確認⑥: 低速点滅していませんか？

対向機器から信号を受信している Signal Detect 状態になっています。リンクアップできる状態になっていないため光ポートの状態および設定、光ケーブルの接続状態をご確認下さい。

確認⑦: 実装している SFP と MC の設定が合っていますか？

実装している SFP の対応速度と MC の設定速度(1000M/100M)をご確認下さい。

確認⑧: R-State スイッチは OFF になっていますか？

R-State ON 時にはリモート側の状態を LED に出力します。

STATUS LED が点灯しない(R-State OFF 時)

確認①: 電源は正常に入力されていますか？

確認②: LP スイッチが ON になっていませんか？

LP スイッチ ON にてループバック試験を行った後に LP スイッチを OFF に戻さない場合、STATUS LED はループバック試験結果を表示します。LP スイッチを OFF に戻して下さい。

STATUS LED が点滅する(R-State ON 時)

確認①: 光ポートはリンクアップしていますか？

光ポートがリンクアップしていない状態で「R_State」スイッチが ON になっていると、リモート側 MC の状態取得ができず点滅します(LPT 有効時は伝送路が繋がっていればリンクダウン(Signal Detect)でも状態取得可能です)。また、リンクアップしていても間に 6700 中継が入っている場合等で、対象機器までの経路が繋がっていない場合も状態取得ができず点滅します。

確認②: 光側対向 MC は監視対象 MC ですか？

光側対向器が同製品および 1700E のみでしかリモート監視はできません。他製品接続時はリモート側 MC の状態取得ができず点滅します。

確認③: 単体設定になっていませんか？

MC が単体設定になっている場合、リモート監視機能は無効なので点滅します。

確認④: LP スイッチが ON になっていませんか？

LP スイッチ ON にてループバック試験を行った後に LP スイッチを OFF に戻さない場合、STATUS LED はループバック試験結果を表示します。LP スイッチを OFF に戻して下さい。

ループバック試験ができない

確認①: 光側対向 MC はループバック試験対象 MC ですか？

光側対向器が同製品および 6700E のみでしかループバック試験はできません。また、本装置及び光側対向のループバック試験対象 MC がリンクアップしていないとループバック試験はできません (LPT 有効時は伝送路が繋がっていればリンクダウン (Signal Detect) でも試験可能です)。

確認②: 中継又は単体設定になっていませんか？

本装置が中継又は単体設定になっている場合、「LP」スイッチでのループバック試験はできません。

LED の表示が設定と合っていない

確認①: SNMP で設定をしていませんか？

ラックオプション (DNHD12E 等) に実装してご使用されている場合、SNMP モジュールからの設定が有効になっていると、その設定で動作します。

確認②: ローカル側 MC から設定されていませんか？

ローカル側 MC をラックオプション (DNHD12E 等) に実装してご使用されている場合、ローカル側の SNMP モジュールからローカル側 MC を通して本装置の設定が可能となります。本装置をラックオプション実装時には設定状態 (ハード SW / SNMP モジュールからの設定 / ローカル側 MC からの設定) を確認することができます (詳しくは SNMP ユニットの取扱説明書をご確認下さい)。ラックオプション未実装時には、スイッチの設定を変更することでスイッチ設定状態での動作に戻すことが可能です。

確認③: LED の表示モードがリモート側 MC 状態表示の設定になっていませんか？

「R_State」スイッチが ON になっていると表示 LED はリモート側 MC の状態を表示します。

設定が変更できない

確認①: SNMP で設定をしていませんか？

ラックオプション (DNHD12E 等) に実装してご使用されている場合、SNMP モジュールからの設定が有効になっている場合や、対向機器からの設定変更の場合には、本装置の設定スイッチを切替えても設定は反映されません。SNMP モジュール側で設定を解除して下さい (詳しくは SNMP ユニットの取扱説明書をご確認下さい)。

対向機器がリンクアップしない

確認①: 1000M 固定に設定していませんか？

ラックオプション (DNHD12E 等) に実装してご使用されている場合、SNMP モジュールからの設定で 1000M 固定になっていて、対向機器が Autonegotiation 設定時は、リンクアップできないことがあります。対向機器の設定に合わせて下さい (詳しくは SNMP ユニットの取扱説明書をご確認下さい)。

特定の packets だけ通信できない

確認①: 1000Byte 以上または 4501Byte 以上の packets ではないですか？

本製品は 1000M 動作時の packets は 10000Byte 迄、100M 動作時の packets は 4500Byte 迄となっています。ショート packets (63Byte 以下) や 10001Byte 以上または 4501Byte 以上のロング packets は正常に伝送できない場合がありますので、ご使用の packets 長をご確認下さい。

